

6 将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組

方針1～普及啓発～

誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

《2017年度までの主な取組》

- (1) 環境行動の実践に向けた広報・啓発
- (2) 地産地消にふれる機会の拡大
- (3) 外来種に関する普及啓発
- (4) 動物園等における環境教育



環境行動フェスタ



金沢動物園での環境教育

方針3～しくみづくり～

保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

《2017年度までの主な取組》

- (1) 生物調査データ一元化と活用
- (2) 生物生息状況モニタリング調査
- (3) 地域特性に応じた保全等の検討の反映



小学生生き物調査 調査票



陸域生物調査の調査項目

方針2～保全・再生・創造～

地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

《2017年度までの主な取組》

- (1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り
- (2) 生物多様性に配慮した公園・河川等の整備や維持管理
- (3) 希少野生動物の保護・繁殖



生物多様性に配慮した公園



多自然川づくり

方針4～まちづくりと経済活動～

生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

《2017年度までの主な取組》

- (1) エキサイトよこはま22における環境取組の推進
- (2) 企業の環境行動の広報
- (3) 産学民間連携による共同研究



横浜環境活動賞表彰式



産学民間連携共同研究

生物多様性横浜行動計画

ヨコハマbプラン

～はじめよう、bな暮らし～



横浜市生物多様性キャッチフレーズ

「ヨコハマbプラン」の「b」は生物多様性=biodiversityの「b」です

1 生物多様性横浜行動計画とは

「生物多様性横浜行動計画」は、市民が身近な生き物とふれあい、生物多様性の理解を深め、行動を起こしていくための取組をとりまとめたものです。また、生物多様性基本法に基づく地域戦略に位置づけられます。

生物多様性横浜行動計画 策定の意義

- ◇子どもたちが自然や生き物と触れ合うことは、何ものにも代えがたい経験です
- ◇郊外部に残る貴重な水や緑などの自然環境を後世につなげる必要があります
- ◇これまでに培われた市民・企業の皆さまの行動力を生物多様性の取組につなげます
- ◇多くの市民が暮らし、企業の立地する大都市の責務として、生物多様性に配慮した行動を実践します
- ◇豊かな自然環境が身近にあるという環境面での強みを都市の魅力につなげます

平成23年4月に策定した計画が平成25年度までの短期的な計画目標期間を満了することに伴い、計画を改定しました。

計画期間	◆中長期的な視点での目標： ◆具体的な取組と目標：	2025(平成37)年度まで 2017(平成29)年度まで
計画構成	第1章 生物多様性横浜行動計画の位置づけ 第2章 横浜の生物多様性の将来像 第3章 横浜の生物多様性の現状と課題 第4章 重点推進施策～5つの重点アピール～	第5章 将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組 第6章 市役所の率先行動 第7章 さらに展開へ

7 市役所の率先行動

第6章

・横浜市ISO環境マネジメントシステムへ反映することにより、区局ごとの「環境行動目標」作成や取組・成果の共有化を行い、率先行動を推進します。
・事例発表、研修会、研究会等により「現場の知恵」の集約を進めます。



職員事例発表会の様子

詳細は、横浜市における生物多様性の取組のページをご覧ください。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/tayou/>

8 さらに展開へ

第7章

横浜市において、生物多様性の保全・再生・創造を進めていくためには、市民や企業の主体的な行動が不可欠です。

そのため、「ヨコハマbプラン」と両輪をなす計画として、市民団体、地域、企業、学校など様々な主体が様々な場ごとに、あるいは相互に連携しながら作成する計画を「bプラン活動単位版(仮称)」と位置づけます。

市民全員で取り組み、日々成長していく。それが「ヨコハマbプラン」の目指す姿です。

2 なぜ、生物多様性の保全が必要か

【なぜ、生物多様性の保全が必要か】

生物多様性とは、様々な自然が存在し、そこに住む生き物たちそれぞれが個性をもち、お互いが影響し合って豊かな生態系を保っていることをいいます。安定した気候、きれいな空気や水、衣食住に必要な様々なものは、生き物や生き物がつながりあう環境が、与えてくれるものです。生物多様性と私たちの暮らしは密接につながっています。

また、生物多様性は、開発や乱獲をはじめとした人為的な原因により、危機にさらされており、その保全が世界的な課題となっています。将来に渡って生物多様性の恩恵を受け続けるために私たちにできることは、豊かな自然環境を次の世代に受け継いでいくこと、市民一人ひとりが人と自然との共生を考え行動することです。

生物多様性の恵み

<p>●衣食住</p> <p>綿や麻等の天然繊維の衣類、穀物・野菜・肉や魚介類の食料、木材などの建材、薪、炭等の燃料、etc.</p>	<p>●医療</p> <p>生物由来の医薬品、遺伝子研究による最先端医学、etc.</p>	<p>●歴史・文化</p> <p>地域に昔から伝わるお祭り、自然の美しい景観、写真、アウトドア体験、etc.</p>
<p>●環境・防災</p> <p>CO₂を吸収し、酸素を生み出す植物 飲料水の確保や災害の軽減に役立つ森林、etc.</p>	<p>●産業・経済</p> <p>農業、林業、水産業 エコツーリズムなどの観光産業、etc.</p>	

“身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし”

■将来のイメージの一例

- ①子どもたちとボランティアグループが樹林の手入れを行っています。多くの市民が自然に関心を持ち、身近な自然を楽しむことが多くなりました。この自然を残していこうという思いを強めています。
- ②企業は、工場敷地にビオトープをつくり、地域の方々と一緒に自然観察をしています。開発での自然環境への配慮、原材料調達における持続可能な利用や回復のための緑化などに取り組んでいます。
- ③郊外部の緑や農地が保全され減少に歯止めがかかり、市街地では緑が大幅に増え、多くの生き物が生息・生育するようになっていきます。海辺でも水質浄化が進み、多くの生き物が見られます。
- ④市民・企業の主体的行動が支える生物多様性が強みとなり、都市としての魅力がアップしています。



横浜は、郊外部に規模の大きな樹林地や農地が残され、また、市街地の中に樹林地・農地がモザイク状に入り組んでいます。樹林地・農地は生物にとって貴重な生息・生育環境ですが、減少が続いています。また、地球温暖化が原因と考えられる気候変動による生き物への影響も危惧されています。

- ▼陸域▼ 緑の10大拠点を中心とした樹林地や農地などは、貴重な生息・生育地です。また、周辺の公園の樹林地などは、私たちにとって身近な存在であり、生き物の移動範囲などを考慮すると重要な役割を有しています。残された樹林地では、地区指定による保全が進められ、市街地の建築物では地域緑化制度などによる緑化が進められています。
- ▼河川・海域▼ 下水処理や排水規制の取組により、水質は向上して魚類、鳥類など多くの生き物たちが戻りつつあります。しかし、東京湾は閉鎖性海域であり、依然として環境基準を達成していない地点があるなど、課題があります。わずかに残された浅海域では、生息環境再生の取組が進められています。



①b-プロモーション ～子どもが夢中！生き物体験～

子どもたちが、身近な自然を楽しみながら学ぶこと、また、誰もが生物多様性に関心を持ち、自然とのふれあいをライフスタイルの一部に取り入れてもらえるよう、プロモーションを進めます。

《主な取組》

- ・b-サポーターズ（環境教育出前講座講師）による子どもたちの体験学習
- ・市民団体、企業、学校等、環境活動の表彰制度や環境教育に携わる指導者への支援
- ・生物多様性に配慮した消費行動やライフスタイルの普及
- ・谷戸環境の体験学習の場としての活用と、谷戸の保全を通じた生物多様性の理解促進
- ・「国連生物多様性の10年」など国際的な取組の場や、国際機関との連携による国内外へのアピール



②ヨコハマ生き物探検 ～鳥がいた！トンボを追いかけて、生き物調査～

身近な生き物について、市民参加による生き物調査を実施します。また、調査結果をとりまとめ、データベースの構築を進めます。

《主な取組》

- ・専門家や市民団体等と連携するとともに、市民参加を含めた体系的な生き物調査の推進
- ・市民が身近な自然環境に関心を持ち、自ら調べ、改善につなげていくために必要な生物知識の向上
- ・小学生による『こども「いきいき」生き物調査』の推進
- ・調査結果のデータベース化と情報通信技術を取り入れた「見える化」の推進



③つながりの森 ～生き物たちの宝庫の森をみんなで守り育てる～

横浜の生物多様性の宝庫である「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいくための取組を進めます。

《主な取組》

＜生き物の多様性を大切に＞

生物多様性の保全再生を目指し、水・緑や生き物の生息・生育環境の保全を進める

＜自然を楽しむ＞

森を訪れ、生き物のつながり、生き物の恵みを「感じ」「学び」さらには「支える」人材となり「発信し」つなぐ流れをつくる取組の推進



④つながりの海 ～生き物豊かできれいな海づくり・川づくり～

市民にとって身近で、多くの生き物を感じることができる海づくり・川づくりの取組を進めます。

《主な取組》

＜鶴見区末広地区＞

人工干潟の生き物の生息状況調査や管理手法検討

＜山下公園前等の内港地区＞

民間企業と連携した浅場造成地での環境改善研究

＜金沢沿岸部＞

野島海岸、白帆地区での市民団体や企業と連携した海づくり

＜アユが遡上する川づくり＞

アユを指標とした生物多様性に配慮した川づくりの推進



⑤生き物にぎわう環境づくり

～地域に合った取組で、多様な生き物を感じるヨコハマ～

地域の特性に合わせた、横浜みどりアップ計画を主体とした取組により、豊かな生物多様性の場づくりを進めます。

《主な取組》

＜地域特性に応じた生物多様性を守り豊かにする考え方＞

生物多様性の観点から、それぞれ地域の特性に合った保全・誘導等の方策を検討

＜緑の取組による豊かな生物多様性を育む場づくり＞
みどりアップ計画を主体とした継続的な取組を推進

